

雫石町小学校適正配置検討委員会
第5回検討委員会議録

平成25年2月21日

雫石町教育委員会

平成25年2月21日雫石町小学校適正配置検討委員会を招集した。

場 所 雫石町役場2階201号会議室

時 間 18時30分～20時30分

1. 出席委員

委員長	立	花	正	男
副委員長	高	橋		繁
委員	平	子		圭
委員	足	立	頼	子
委員	坂	井	和	久
委員	栗	木	将	史
委員	櫻	田	正	行
委員	中	南		博
委員	志	戸	前	正勝
委員	村	田	賢	一
委員	煙	山	和	彦
委員	高	橋	與	右衛門
委員	小	赤	澤	直子
委員	吉	田	敏	子
委員	佐	々	木	登和子

2. 欠席委員

委員	村	田		崇
----	---	---	--	---

3. 事務局から説明のために出席した職員

雫石町教育委員会教育長	吉	川	健	次
雫石町教育委員会学校教育課長	高	橋	啓	二
雫石町教育委員会学校教育課主査	田	辺		茂

4. 書 記

雫石町教育委員会学校教育課主任	坂	井	一	博
-----------------	---	---	---	---

5. 開会宣言

田辺主査 1. 開会を学校教育課長から。

高橋課長 こんばんは。仕事でお疲れのところ出席いただきありがとうございます。ただ今より第5回雫石町小学校適正配置検討委員会を開催。よろしく申し上げます。

田辺主査 2. 教育長挨拶。

教育長 今日はお忙しいところお集まりいただき大変ありがとうございます。本日5回目。前回協議いただいた提言書案を改めて送付した。最終協議をお願いしたい。主に5校とすること、使用校舎の明記、雫石小と七ツ森小が条件を満たさなくなった時点で再協議、つまり複式学級ができる状態には再協議と提示。その他、スクールバスの運行拡大、学校跡地の有効利用、児童と地域の結びつきの継続についても書いてある通り。具体的な方法はこれから。色々な面から検討いただき、例え少数意見でもできる限り実現したい。修正申し上げます。雫石町の子供達のために忌憚のないご意見と慎重協議をいただきますようお願いします。

田辺主査 3. 委員長挨拶。

委員長 こんばんは。暑い夏から始まった会議が寒い冬に最終回。雫石の子供達が将来、自分達の学習環境を良く整えられるようご意見いただき、最後提言書でまとめる。最終確認、付け加えるべきことを今日確認。教育長に今後ご検討いただくよう提言書としてお渡しする。今日も建設的な意見を出していただき、追加点等付け加えて、提言書に反映させるようよろしく申し上げます。

田辺主査 4. 協議からは委員長の進行でお願いいたします。

委員長 それでは本日の次第、提言書について最終確認。これから委員会として教育長に提言する文言や修正について議論したい。事務局からお願いします。

田辺主査 【提言書について変更点の説明】

委員長 ありがとうございます。これまでの議論も踏まえ、提言書の形式を整理。

副委員長 「はじめに」の文章に、24年7月9日より開始のプラスと、何回の会議をまとめ、委員会として結論を次のとおりまとめた等文句を加える必要がないか。

委員 何回の会議でまとめたのがこの提言書ですと補足するといいいのでは。

委員 今後においてものところで、学校区域ごとの出生数等で児童数を推計するのところ、さらに小規模化が進むことが予測されますのところ、段落を入れた方が普通の人を読むのに楽かと思う。次段落、同じ文末が2回続く。書く時は同じ用語を続けて使わない方がいいので、続かないよう表現を変えたい。

それから委嘱でいいのか。諮問とか答申という言葉に跳ね返る文言ではないか。雫石町小学校配置検討委員に我々委嘱はされたが、委員会としてはどうかという。個人的なものは本人に委嘱でいいが、委員会としての共同討議なので。

委員長 委員会に諮問した。

委員 委員会に付託したと思う。答申していない。

高橋課長 教育委員会から諮問ではないと思いますので。

委員 諮問という形で出てこないと答申できないので。

委員 提言書であれば諮問ではない。

委員 問題点は付託されたわけで、個人に付託しているのか委員会として付託受けたのかははっきりしないと。

委員長 位置づけですね。この委員会の。

委員 委嘱状は個人宛、それが結局委員会として構成しているわけだから。

委員長 委員会から話し合ってくれとお願いしたという形が文章的に普通では。

高橋課長 町の教育委員会からということ。

委員長 話し合いましたと。これを提言いたしますという形。5回話し合いをしましたので是非参考にして、これから適宜考えて下さいと。

委員 提言書は教育長に出すが、一般公開されるのか。恐らく公開かと思うが、全体通して気になったが、例えば小学校の小規模化という表現。ここでは分かってても一般的な小規模とはボリューム感が小さいと捉えがち。例えば1学級あたりの児童数減少や複式学級化などいわゆる小規模化、とか、或いは小規模化の定義は具体的にこうとか。誰が見てもわかるよう訴えたいのが1点。あと5行目、教育的効果を十分にあげられない状況という表現を検討いただきたい。メリッ的な表現がいいかと。例えば、一定規模であれば集団を通して教育が可能とか。

委員長 統合によって効果が今より上がるだろうという肯定的な表現がいいのではと。

高橋課長 否定的な部分ではなくですね。表現については変えさせていただきます。

委員長 はじめには今ご意見いただいた部分を再度変更、検討。教育的に効果を十分にあげられない状況があるというマイナスな表現から、統合によって教育的に今よりもっと上がるというようなプラスの表現に変更。それから文言の修正では2回同じ表現が続かないよう変更。最後は終わりました、こういう資料でまとめた等の文章で終わるといい。以上、はじめにの部分はそのような形でまとめますようお願いいたします。それでは2~3ページ、現状や今後の推移の推計について、何か。

副委員長 コーホート要因法とは、一般的な人口推移のための方法か。

高橋課長 通常5年単位で、移動について5年毎に今までの推計を見て、これからのさらに推計を立てるといいます。

副委員長 厚生省の人口動態等についての方法も、コーホート要因法に基づいた推計か。

高橋課長 はい。総合計画もそうです。

委員長 行政用語とはそれこそ一般の方がわからないようなルールがある。下にも説明があるので説明はあったかと。あと、2~3ページの現状の部分は宜しいか。

委員 平成27年と平成31年の中間年次と目標年次とは統合の目標年次ではないか。

坂井主任 違います。取った方がいいですかね。何かコメントを付け加えるか。

高橋課長 第二次雫石町の総合計画の確定の段階で、31年を目標年次で設定したもの。

委員 最初見た時、統合の年次かと思ったので、勘違いする方もいるかもしれない。私もよく見ていなかったというのもあるが、取るかもしくは付け加えた方がいいかもしれない。一瞬見た感じその辺り少し気になった。

委員長 この目標年次とは統合の目標年次と思われる可能性があるという、やはりそれは誤解がないような表現にさせていただくと。

委員 2行目、ピークとして減少に転じ、とかどうか。言葉使い上はいいかと思うが。

委員長 気付いたことはどんどん挙げて下さい。4ページ、これは現校舎の築年数、或いはその状況。これはこの通りで5ページ。ここからが基本的にこの委員会で話し合った中身について整理された部分。時間を取りながら進めていきますが、基本的な考え方ということでどういう学級を適正と考えたか、それが35人ということ。それから1学級あたりの人数ということで、学校規模等についてどうか。県として35人学級を小学校4年生まで拡大すると。

高橋課長 県としては来年度小学校3年生まで。26年度には4年生まで拡大。

委員長 それは例として、雫石では25人を上回る場合は支援員の配置を付け加えている。その部分は是非ということになると思うが、あと何か皆様どうでしょう。

副委員長 文言的には特に問題ない。色々な質問が出て問題になるのは、複式学級の解消はどのような意味を持つか。それについてはっきりした見解を持つ必要がある。これは入れるのではなく、何点かに渡ってまとめておく必要があるのでは。

委員 模範答弁紙ですね。

委員長 そうですね。複式学級解消には2つの意味がある。複式でない学級にするのと、複式該当で教員人数は足りないが分けて教える。例えば複式のクラスに副校長も入って分けて教えて、その学校に複式が存在しないようにしたいということ。

副委員長 つまり先生方がその学年のカリキュラムや教育内容を40～45分できちんと決着させることが必要になる。もう1つは、何しろ先生は40～45分で2学年の内容の精査が必要で大変な負担。子供達にとっても、昔は複式学級だと下学年は上学年の注意のされ方を見て、育ちが早いと言われたりもしたが、今はそういう時代ではないと思うし、その辺はきちんと確認しておく必要がある。かつ、カリキュラムの内容も高度化。1人の先生が2学年に渡って指導するのは大変難しく、混乱する。それらをやはりきちんと整える必要がある。文言を変えろというのではなく。

委員長 今後の説明の段階で、今後こう見直すべきだと恐らく出てくる。先生方についても指導についてでもいい。あと何か。6ページ、前回適正配置の方法では、雫石小と七ツ森小の結論は前回の案では出ていなかった。雫石小、七ツ森小は現在のまま残すとなったのが前回の結論。それを付け加えている。5.の、5校に今回は集約することについて提言するが、今後複式が混在するようになった場合、今回の議論を踏まえると複式でない状況が子供達の為という結論になっているので、そ

の議論に沿うと複式が混在した場合、再度検討して欲しいというのが4.の下半分、5.について付け加えている。これについて何か皆さんからご意見ありますか。

委員 4. 適正配置の方向性という言葉、3.の方法と似ている。中身からいくと4.は適正な小学校数、配置数とか数をシンプルに書いた方がいい。それから七ツ森小の場所の件、団地形成が進んでいるという点、はっきりしない言葉かと。前回の議論で旧4中学校区、プラス七ツ森小は新しい地域と整理をした。何の団地か、住宅団地が形成された新たな学区という表現がいいかなというのが1点。それから4.の最後、今回は雫石小との統合は見送る、だと次回は統合することにつながる表現かと。考慮し雫石小と統合しないことにする、と単純にした方がいい。

委員 ただではなく、なおにして改行したらいかがか。流れが変わって理解しやすいかと思う。今回はではなく当面とか。なしならなしでもいいだろうし。

委員長 今回というのは単純に取ってもいいかと思う。下に次の方向性があるし、検討し直すということもあるから。当面とするといつなのかという議論になる。前の中学校区に統合すると雫石地区も統合の方向だが、今回は例外という文章に。文言整理をします。住宅団地等の七ツ森地区は、他の地区とまた違う状況で作られた。前回の地区ごとに地区がごっそり移転したというような形があることの歴史も教えていただいたのでそれも踏まえながら。あまりそこだけだと七ツ森小が特殊扱いされるようで、あっさり書いた方がいい気もする。児童数がきちんと確保されているので七ツ森小は外すということも。あと何か。

委員 5.の適正配置のまとめのところ、今後3年以内に統合する方向となっているが、分かりにくい。最後に28年とは書いてあるが、委員会として少し思い切って平成27年と出してもいいのでは。

委員長 出来るだけ早くをどこに押さえるか。今後3年を後ろの平成28年に合わせるところ、28年を含めると最も早くをきちんとしておいた方がいいとのことだが、いかがか。

委員 いずれ目標がないとなかなか厳しい。はっきり目標年数を決め、準備を進めますとした方が具体的でいいと思うが。

委員長 事務局としても自分達の首を締めながら28年となったかとは思いますが。でもやはりここに向けてまとめるという。28年とするかもう少し早めにするか。4月になれば25年度が始まるので。そうすると準備期間が。

委員 5、6、7。中3年。

委員長 5年、6年。7年からとなると2年しかない。説明会をしていかがか。思い切って27年を使ってみますか。

委員 はっきり言って、これから進める、最初に了解事項が、となる。その作業がどれぐらいを目標にしているかで、並行して機材の移動手順とか、絶対数の把握が伴う。そうすればあと日にち決めてすぐ移ること考えれば。

委員長 委員会の意見としては27年です。これから教育委員会で検討し、無理だからやはり28年となる気がする。我々としては出来るだけ早くという思いを込めて27年とし、それについての提言書を受けて、教育委員会として行政的な判断、或いは議会的な判断で議論していただくというような形はどうでしょうか。

高橋課長 よろしいと思います。あくまで提言書でございますので。

委員長 今後3年以内というところを、後ろのまとめのおわりに合わせて、そこも含め、27年4月という形で。

委員 27年度ですか。27年以内に統合ですか。

委員長 27年4月に統合する方向でという形ではないですか。

委員 4月だと5年と6年、2年です。了解ですぐ成立すればね。

委員 実際は大変。28年でいいのでは。個人的には。

委員長 28年と書いておいて準備ができ次第、出来るだけ早くという形の提言はいかがか。教育委員会にも余裕を持って28年で。出来るだけ早くを少し大きい字で乗せて目立たせる。それでは案どおり28年。でもこだわらず、出来るだけ早く準備し、出来次第前倒しのできる限りやって欲しいという形の提言書でよいか。それでは4.の適正配置の方向性というタイトルも検討した方がいいという案が出ましたので検討していただく。雫石の七ツ森小の関係は文言の整理と出ましたので、そこを検討。それでは7ページ、統合する場合の位置等について。具体的に統合の学校をまとめごと示しているわけでこれについて何か。

委員 体育館だと思うが、2年から15年程度の残期間が残っているとので、多分2年とは安庭小の体育館。建て替える予定はあるか。2年が過ぎても大丈夫なのか。

高橋課長 今のところ安庭小の体育館が町内一古い。これは首長の判断になろうかと思うが、いずれ建て替えは必要になる。いつからいつまでというのはまだ出せない。一応、耐震の診断は受けている。

委員 西山地区は〇〇小の校舎を使うということで前回、教室数が足りない。でも使うとすれば〇〇小だろうと私も実際思い、校長先生に許可をいただき見せてもらった。確かに1教室図工室に使って、なおかつピロティとなっていた。要するに屋根はついているが下がブルーシートで外の状態。完全に1室足りない。〇〇小のことを言うと、構造上総2階なので教室が元々1つ多かったかと。だからコンピュータ室を作っても、今1つは学童保育になっている。〇〇小がいいと言っている訳ではないが、教室スペースに最も余裕のある、との記載は違うかなと。あと放課後児童クラブが〇〇小は別棟。実際は〇〇小の放課後児童クラブもいっぱいという話も聞いている。新たに3校合同となってさらに大きなスペースが必要と考え、どちらにしろ新しく作るを考えれば私としては、子供達が一番環境のいいところで勉強できるのはどうかと考えると、今更ですが決着つけるのはどうかという印象を受けた。結局、〇〇小は多分今までずっとあそこにあって、グ

ランドも今まで通り。プールを見ると町内全部昭和47年に作ったようで、そのまま改修工事はやっている。〇〇小は移転し、58年にグラウンド整備をしてプールも作っている。3校比べると〇〇小のグラウンドが一番水捌けがいい。1時間経てばすぐ良くなると。プールは低学年用は浅く、高学年用は深い。〇〇小は低学年用の浅いプールがないので、低学年は踏み台等沈めて使っている。そう考えると、子供の環境的に考えると〇〇小でいいのかな、地理的には一番良くてどうかな、と。率直な意見ですがその辺はどうでしょう。

委員 今の意見は私も気になった。ここの判断をするにはきちんと根拠を揃えておかないと色々な人が色々な思いを巡らせる部分。例えば旧西山中学校区となると、多分西根小のエリアが西山中になるのかな。

高橋課長 今の西山グラウンドの辺り。

委員 という、西山中が中心になる。中心にすべきという意見の配慮の仕方。あとは交通の便とかという部分をここには盛り込み切れなかもしれないが、表等で判断した実際の根拠がないと。言い方悪いが、そう言えば町長はどこかとか変なことにならないよう、にあの示した方がいいかなと。

委員長 地区説明会があると思うので、その時になぜここかという部分をきちんと説明できる根拠。今みたいな校舎のことや或いはプールのこと、きちんとデータを揃えた方が良くかと思いますが何かあれば。

高橋課長 例えばここの検討委員会でどこの学校を使うと出さなくていいかと思う。3つの学区があるので、その中で一番適正な、子供達にとって一番いい環境の学校に集まるといった表現でいいかと思う。

委員 ではここの文言は無くすのか。

高橋課長 明確に書いていただければ教育委員会としては大変受けやすい。動きやすくなる部分はある。確かに〇〇小の今の教室から見るとやはり足りない。子供達にとって不安な部分はある。はっきり言って〇〇小の方が確かに余裕がある。

坂井主任 〇〇小は図書室を半分コンピュータ教室にできて両立できた。それで他の教室を削らなくて良かった。コンピュータ教室を普通に作った学校だと、それこそ〇〇小は図工室を潰さなければならなかったと思う。私小学生の頃、〇〇小の図書室大きかった。広かった。だから偶然です。

委員長 こう書いてあるにしろ、地区住民との意見交換をして、統合する学校については、校舎等検討して欲しいということは付け加えた方がいい。スペースに最も余裕のあるという文言は嘘ではないかとも思いますので。

委員 面積的には一番広いですが。

委員 スペースに最も余裕のあるという表現は私もおかしいと思う。安全に築年数とか物理的に動かせない記述の表現の方が。その余裕のあるという表現は違う。

委員長 反対派はここに突きますね。防御にはなるが、突く場所を作らないように。

委員 それでも学校側の絶対的な受け入れの態勢が整えられれば、それはここ何年間の計画で整備していくしかない。地域住民のそれは大切だと思うが。ただそれでも足りない、今、特に特別教室がコンピュータとか図工とかやるとすれば、建てた頃から見るとカリキュラムが違っているだろうし。足りないものは行政的な配慮の中で施設の増設を前提に考えるしかない。当面は、今の施設に入るけども不都合な箇所はクリアしていくのが行政の責任だと思う。

委員長 きちんと考えて子供達が不自由することがないように一言付け加える。この中でスペースが最も余裕のあるという部分の文言は取る。築年数とか他と同じような形、築年数で推すのがいいというご意見。そこの修正。下長山小とは書くが、そういった事情を考え、違う学校になる可能性も酌んで欲しい。それでは 7 ページ 1. は、増改築等も含め子供達の教育環境を確保するという前提を置く。

委員 すみません、なお以下は不要かと思えます。

委員長 4. に書いている。それでは、統廃合についての課題のところ、皆さんからのご意見いただいたこと、まとめていただいていると思いますが、これを読んでいただき、さらに付け加えて欲しいことがあればお願いしたい。

委員 もし統合になった場合、西山地区は、上長山小、下長山小、西根小だが、今、西山の学校では、午前中は小学校で運動会、午後からそれぞれが地区民運動会をやっている。統合が決まっても、地域の人との係わりがすごくあるので、一回、区長や PTA 会長等集まって、運動会どうするか話し合いをしないといけない。統合するための準備委員会のようなものは作るのか。

委員長 学校ごとに恐らく出てくると思う。それは先生方も含め、結局子供達の児童会どうか。あとはまた別に校章どうするか。

教育長 校旗、校名、校章。

委員 校歌。

教育長 教材、教具等の移動等。使える、使えない。新規購入とか。検討は必要。

委員長 地区に説明会をして、その後大体まとまったら今度は学校を新しく統合するための委員会。そういうのがそれぞれ立ち上がっていくと思う。

委員 統廃合で小学校 5 年生の子が亡くなったニュースがあって、課題として地域住民は受け入れにくいだろうし、子供達の中でも嬉しい子も入れれば拒絶する子というかメンタル的に難しい子もいると思う。その辺りはしっかりやると書いていただくと、統合する時も親御さん方も安心できるかなと。よろしくお願いします。

委員長 精神的なサポートについて十分ケアして欲しいと。

委員 例えば統合する 1 年ぐらい前から、こういう理由でと言えば子供達に分かっていただけたと思う。例えば 10 分、15 分、少しずつ教えていって貰えばと思う。

委員 スクールカウンセラー的な方を配置いただければ親御さん心強いのでは。

委員長 スクールカウンセラーの配置は今どうか。中学校には行っていると。

高橋課長 中学校には行っている。現在、ほとんど臨床心理士は被災地に行っているのですが、こちらにはなかなか来られない。中学校には週 1 回木曜日に来て、後は必要な小学校にも出向いてもらって兼務していただいている。

委員長 各小学校に配置するかどうか、ということで課題が分かる。

委員 付け足しで、1年前から統合する学校の子供達の交流の場をしっかりと、出来れば学年毎に持っていただきたい。例えば 6 年生だったら修学旅行一緒に行くとか 5 年生だったら野外活動一緒にやるとかそういう形でやっておいた方がいい。そうでないと子供達も統合した方がいいけど、何か落ち着きなくなったとなると先生も大変。その辺は準備期間として。

副委員長 交流学习やっていませんでしたか。

教育長 統合とかは考えず、10 校を 2 グループに分けて小学校 6 年生が交流学习をやっている。あとはこちらから特別言っているわけではないが、橋場小と大村小が水泳記録会で一緒になったり、後はスポ少で一緒にチームとして出たりはしている。

高橋課長 修学旅行もですね。

委員長 要するに先程の統合準備委員会等との含みになってくると思うが、教育委員会の行事的な面でもやっていくことについては、きちんと計画的にやって欲しいということになっている。あと何かございませんでしょうか。

委員 昔は距離がある人は自転車通学が許されていたと思うが、自転車通学に関して、今でもプールで学校へ行くときは自転車の許可がおりているが、自転車で通わせる方法はあまり考えていないのか。

高橋課長 ほとんどの学校が自転車通学は禁止。禁止ではないのは上長山小。

委員 何年か前に自転車事故がどこかであった時に、校長先生がこのままだと駄目だということで PTA に 1 回全部総会かけて、どうするかと。ただ、いきなりはやめられないということで、そのまま存続。その代わり許可の形をとって、責任は一切親が持ちますという感じで。乗るとすればスポ少がない月曜日や木曜日とかそういう形にはなる。今も現在そうしている。休み期間も。

委員 統合すると距離が出る。歩かせろではないが、自転車で通わせろとか。検討してみてもいいのでは。

委員長 通学方法は十分検討し、自転車通学についてもきちんと検討してほしいと。やはり学校の管理者からすると、学校の小学校の子供達どこまで大丈夫かなという、昔は自由なんですけど、事故あった時とか、子供たち守るためには何か必要かと思う。色々なことでやっているが、子供達守るためには一体何がいいかということで検討してもらいたいと思う。ヘルメット被らせるとかもそうです。

副委員長 町内に集団登校なんか現在やっている学校ございませうか。

高橋課長 ほとんどやっている。

副委員長 奥州市で集団登校に車が突っ込んだ事故、こういったニュースはよくある。登

下校の問題は、現在の社会状態ではもの凄く神経を使って吟味しなければならない。特にこれから新しく編成する学校に入る場合は、登下校は簡単ではなくしっかりした安全策を考えた登下校になるような工夫が絶対必要。学校だけでなく地域全体、町全体で意識をしっかり持たなければならないかなと思う。

委員長 統合する場合の課題について、通学路の安全の確保、これは歩道の確保とか行政的な首長に関わった問題になってくる。それについては教育委員会の方で要請していただく。単に子供達を集めるのではなく、そこに行くまでの歩道、それにより安全がきちんと確保されているか確認いただき、その部分の検討はこの課題の中に入れていただくというようなことでよろしいか。

委員 そうなるとスクールガードも町でしっかり確保しないと、地元だけでスクールガードを集めるのはちょっと限界が出てきているのでそこもお願いしたい。

委員長 通学の安全確保ということで、物理的などころ人間的などころについてのケアをきちんと考えていただきたいと。色々な問題がこれからますます出てくると思う。今後、来年度からになると思うが、地区の説明会が開始。その中でもどんどん寄せていただくような形になると思う。この中で我々が今考えることについては示していくということで宜しいか。それでは、おわりにのところでなります。

副委員長 2. 統合する場合の課題で、児童と地域の結びつきをどのように保つか、空き校舎の活用の部分、これはものすごく重要だが通り過ぎていい問題か。実際に関わるのは行政だと思うが、統合して空き校舎活用の課題は実はもの凄い大事で、地域での説明会ではこれはものすごい課題。地域全体がその1点に変わった論議が集中される。私はこれについて何通りか選択肢を用意しておく必要があると思う。

委員 これについては8ページにも載っている。

高橋課長 空き校舎をそのままにするわけではない。有効活用についてはこの場でするのではなくて。

委員 それは地域の方にとって失礼な提案の仕方になると思う。地域の方に検討していただくということになると思う。

委員長 公民館的な扱いをしながら、どう有効活用できるかは意見をもらいながら検討してもらおう。宜しいか。

副委員長 了解しました。

委員 今のご意見を他地区のディベーターも集めて置いた方がいいかとは思いますが。

委員長 他地区ではどう使うとか説明を受ける。あとどんな意見が出ているとかか。

高橋課長 町外、他町村で統合しているところはある。そういったところの活用法は資料としてこちらで提示しておかないと、説明がなくなってしまう。選択肢をある程度広げるかたちで提示していかないとだめかと。

副委員長 公民館、コミュニティーセンターで活用しているところもある。それから福祉施設と言われているところもある。何にするかまだ決まっていないところもあり、

どうするかを心配するだけで何もできない状態のところも確かにあるので。

委員長 使っていないと空気の循環がなく、すぐに悪くなってしまいますので、有効活用するようになると思うので、是非そこは結論を大事にさせていただきたい。それでは、おわりにの最後の部分、以前付け加えている。今までの議論を含めて何か。

委員 最後の部分。教育委員会から求められたことはこの通りかと思うが、1つ付け加えたい。どう統合するか視点だところだが、町の将来を考えると児童数が減るから統合、次また減ったら統合というより、学校と子供を単純に見ただけだと言うと提言は物足りない感じがする。委員会としてのメッセージとすると、統合したくないがやはり統合した方がいい。できればこの統合もしたくない。無理だと思うが、できれば復活させるくらい子供の数が増えて欲しい。というようなメッセージとして残したい。多分、教育委員会というよりは町にそういう部分の付け加えとして、子育て世代が住みやすい町づくりとか、その世代が働ける町づくりを強く要望すると最後に入れていただきたい。

委員長 やはりの後か、子ども達が増えるようなと2次要請的にですが、子供を育てやすい町づくりの中でという形で入れてほしい。訂正が多いがこれで大丈夫か。

委員 前の方で、全体的なものには関係ないが、3ページ学校別児童数の推移。橋場小、平成24年度で1年生が単独で2、4年のところが複式で塗りつぶしている。5、6年も複式で塗りつぶされ、学級数自体は変わらないがその訂正を。

委員長 そこをきちんと訂正し直して欲しいと。2・4年は凄いな。そこまで離れると。

委員 3年生がないので。

高橋課長 通常であればこのようになるが、学校経営上こうしたいということで。

委員 あと何か。全体的なところはこれから直していただくが、最後なので委員の方々からご要望いただき最後にまとめたい。副委員長さんも最後に評価をお願いします。

委員 特にはないが、いつかはこういう統廃合の話が出てくるだろうと思っていた。まさか委員になるとは思っておらず、きちんと色々な協議ができた中で、最終的に子供達にとって本当によりよい教育環境ができればいい。これから大変ですがよろしく願いいたします。

委員 この後の流れっていうのは、簡単に教えていただきたいんですけども、父母の方への説明っていうのは、いつ頃行っていたらいいんですか。

高橋課長 いずれこの提言を受けて、教育委員会として方向性、計画を立てるということで、頂いたから方向性をすぐ出すというわけにはいかない。色々なデータを揃え、十分検討すべき期間も必要になるので、大体半年ぐらいはかかるかと。その中で後は議会へ説明し、来年度中に地域への説明に入っていければ凄くいいと思うが、もしかしたら期間がずれ込む可能性もある。ただ、頂いた提言どおり28年4月まで出来るだけ早くとなれば、来年度中に説明会に行き、住民に理解していただけるかどうかそこが一番大事だと思う。

委員 できれば、この委員の方が在籍している年の間に説明に回っていただけると、フォローとかにも回れると思います。何分残りの年数がないので。

高橋課長 ありがとうございます。

委員 ○○小は残留であれば残留の理由だけでもいいので、私が PTA の会員の間に早めに来ていただくと助かるなと思います。

高橋課長 できるだけ、教育委員会としての報告を早めに出してですね、計画を作りたいというふうに。

委員 お願いします。

委員 決まって、後はこれからどうなるかっていうのがあるんですけど、地域の住民の方の意見もあるので、どうなるかというのもありますけれども統合なった場合は、形は統合になったとしても地域との関係とかですね、PTA としてのあれが凄く大変なんだろうなと思うと、そこにいた父兄の人たちは大変だなと思うと私もまだそこに残っているんだな、というのはですね、来年度、私の子供が入りますので、どうみても居るよなということですね。一番かかるというのは調整するのは PTA の方も大変だろうなと思って心配していました。

委員 こういう貴重な委員会に参加させていただいて、大変どうもありがとうございました。統合する方向だと思いますので、前回も言いましたが、子供達にとっていい方向に進めば親子としてはいいので、今後どうぞよろしくをお願いします。

委員 私も第 1 回の時の最初の挨拶で申した通り、我々親世代と同じような条件で子供達の教育をつけてもらいたいと。まずはこういう面では人数だな、友達、団体競技。そういった部分でということもあっていい協議ができたと思います。見守って、地域のコミュニティーとの色々な説明、フォロー等あるかと思いますが、今後とも是非いい提言ができるようよろしくお願いたします。

委員 5 回の間、勝手な話をずいぶんしまして申し訳ありませんでした。いずれ、この小学校の統合は教育委員会だけではなく、町として非常に大きな取り組みとなると思うので頑張ってもらいたいと思いますし、我々も地元の中では委員会が終わったからさようならというつもりはありませんので、今後も協力していきたいなと思っておりますので。これまでどうもありがとうございました。

委員 1 年間、5 回委員会に参加し、やはり、私の最初のイメージ通り統合だとは思っている。ただ、同じ統合でみんな同条件だとは思いますが、○○小の場合は○○小が大半。そこに多勢に無勢ではないですが、例えば 100 人に 10 人入る状態なので、そのあたり特例とは言わないが、前もってそういう交流をやっていただきたい。3～4 校一緒になるのであればみんな同条件だと。○○小と○○小に関してはそういう条件なので、考慮していただいてメンタルの面でも見ていただきたいなど。どうしてもそういう場に行ってしまうとついつい引っ込んでしまう可能性がある。そういう面はカバーしていただきたいと思っている。後は、私、今回区長もやっ

ているんですけど、地域の方の説明が大変だなと、ちょっと今思う。先程、皆さん私何年、何年って言っていますけど、私は今年で終わりです。私の子供は小学校には関係ないとは言いませんけど、卒業しますけど。また私の子供の子供が同じ条件になってきますんで、その子供達がよりよい環境で勉強できるようにやっていただきたいなと思います。どうもありがとうございました。

委員長 今あったように、統合した子供達が嫌な思いをしないような形でのフォロー、さっきのメンタルも含め、或いは受け入れる側の学校の仕組みも出てくると思うので、その辺は十分配慮していただく。

委員 私は第1回から今回5回目まで、自分の中で統合に対する答えが出せないまま来ていた。私の中では統合はどちらかというと本当に最終手段というイメージ。この会への参加となれば本当に子供達が住みやすい、親が寄ってくるような町にするためにどうすればいいかを考える会に参加させてもらいたかったと思う。これから地域の人達は恐らくかなり反対すると思う。こう決まったからには、子供達もこれから子供を入れる父兄も本当にこれで良かったと思えるようなケアとかそういう部分をしっかりしていただきたい。そういう部分でしたら私も協力させていただきます。よろしくお願いします。ありがとうございました。

委員 私も今年で小学校の子供はいなくなるのではっきり責任感がないが。3年前、〇〇小と〇〇小で野球のスポ少だけ合併した。現状としてブルーサンダースに〇〇小から1人もいない。〇〇単独チーム。一緒になった時のケアがいいのか悪いのか分からないが、そういったこともあるので、統合時は子供達へのケアは慎重にやった方がいいかと思う。

委員長 そういう事例等について、我々、教師側での問題点や課題が出てくる。

委員 今思うのは、皆さんが色々悩んで考えて、苦しんで出した結論なので尊重したい。とにかくこれをマイナスではなく、プラス方向に考えていく気持ちでやっていけないといけないと思っている。

委員 とにかく、学校のPTA会長方のこの町を思う気持ちは凄い。こういう検討会5回目に至っての、この提言をしっかりいただかなければいけないということを思った。統合に絡んで子供の死について出ましたが、あつてはいけないと切実に思う。統合というのは皆の為に1歩でも2歩でも、いい学校生活を送れるようにということを学校現場でも教育委員会の指導を受け、いかに子供達に分かってもらえるか、そういう教育をやっていかなければと思う。学校はここを育てていかなければいけないなど。強さとか弱さとか、そういうことをこれからの学校現場では提言を受けてやっていかなければいけないと強く思った。沢山勉強させていただきました。ありがとうございました。

委員 ありがとうございました。5回参加させていただいて本当に勉強になり、私の出来ることはコミュニティーで参加させていただきながら、これからも協力できる

ところで協力したいと思う。よろしく申し上げます。ありがとうございました。

委員 この間の新聞にも載っていたが、来年度は県内でものすごい数の統合がスタートする。ただ、スタート地点に並ぶには、どこも相当の時間をかけてきて、一回だめになった検討委員会も結構ある。葛巻もかつてあって、安代でもやっていた。盛岡市も今回 2 校ぐらい統廃合がある。ある意味では社会の流れかなという部分もあるかと思うが、いずれ現実としては町民がどんどん減って、世帯数が減らないのに生産人口だけがどんどん減っている。この現実をやはり、逆に生産人口が増えていく形にすると、滝沢市になった時に新設校が 1 校できる。今の滝沢のサービスエリアの辺りのようですが、というところも近くでもあるわけなので、やはりそういう形にすることによって子供達も元気になるでしょうし、支えていかなければならない親、私みたいな一介の町民ですけど、町民もそういう立場に巡り合える時を、狙わないことにはやはりおかしいと思うので、そういう意味では勉強させていただく非常にいい機会だった。私の意見がいくらかでもお役に立てたのであれば非常に光栄です。ありがとうございました。

副委員長 委員の方々が非常に子供達の将来の為ということを全面に掲げて、地域に捉われたり或いは感情論に流れたりしない。そういうものを冷静に判断しながら討議されている姿を凄いなと感心させられた。学校統合という問題は 1 教育の問題では実はない。町づくりと深く関わる問題だと思う。これから恐らく教育委員さんと当局は大変な苦勞をされると思う。つまり総論としては賛成のパターンがほとんどではあるが、感情論が出てきたりもする。広く時代を捉えながら今置かれている私達の雫石という町が将来的にどう発展するのが一番いいかと、それからこの学校統合を一体となって考えていくことが大変大事にされてくると思う。ご指摘があったように形の上の統合だけではなく、実は中身も大事ということで、適正配置の結果が効果として実る、そういう中身を考えていかなければ、ただ形だけ整えてよろしいということではない。そこのところ等、色々考えていかないといけない課題がたくさんあると思う。教育長始め、大変御苦勞様ですし、私達は 1 つ分 1 人の評議員としてそれらのことについて、出来る限りのことを協力して、この検討委員会の話が本当に実りがあって、将来子供達に役立てるような話合いになるよう努力し続ける義務があると思っている。いずれ大変ありがとうございました。5 回の会合できちんとまとまったのは、私は素晴らしいことだと思って。大抵、10 回以上かかる。以上、感想を述べて感謝をしながら終わります。

委員長 本当に 5 回の中で委員のみなさん、私は雫石の者ではないですが参加いただき、素晴らしい子供達を思う気持ちを感じさせていただいた。本当に子供達が少なくなっているというのは、これも今教員を目指す学生達を指導しているが、その学生たちこそ辛い。採用が抑えられている。なぜそうかという統合されるということ、実はそれも辛いところで教員数が減り、そうなんですけど別問題で、やはり子

供達がそういう状態で自分達が社会に出た時に自分の力を開花できる。そのためにどのような環境を整えてあげることができるかということが、そういう面で皆さんに本当に議論していただき、いい提言ができたと思う。これを持ってこの会は閉じますが、議論しておきたいというのがありましたら、やりたいと思いが宜しいか。それでは本日の競技についてこれで終了します。

田辺主査 ありがとうございます。それでは今日の検討委員会で様々なご指摘、ご修正の話をいただいたので、それを修正した形で最終的に提言書を確定させていただきたい。今日については形式的になるが、最後5番の提言書の伝達ということで、委員長から教育長に提言書を伝達に向かうような形になります。

委員長 文言の修正については事務局から私達に見せていただき、一任していただいて最終的には私達は見る。今日は皆さんの意見を加味したものを作成していただきたい。それで直したのを私が見てOKしたので出しますが、それでよろしいか。

平成24年7月9日より第5回に渡って雫石の小学校の適正配置検討委員会を行った。雫石町小学校の適正規模、適正配置に係る提言書を作成しましたので、ここに提出します。是非、28年度にはこの提言に基づき統合できるよう、学校側と協議し、子供達にとっていい環境になるように、ぜひ事務局で早急に検討していただけますか。

教育長 はい。子供達の将来のことを考えて十分検討いただいた。いただいた提言を教育委員会の方向性に十分生かして出していきたい。期限は決められている。出来るだけ早く実現の方向に向け頑張っていきたい。大変ありがとうございました。

6. 閉会宣言

田辺主査 それでは6.閉会。学校教育課長からお願いします。

高橋課長 5回に渡って検討委員会を開催し、素晴らしい意見をいただき、教育委員会としても町づくりの一環という形で統合等を考えていきたい。これからも皆さんの意見等々ありましたら遠慮なく教育委員会にお電話いただければ。本当に長期間にわたって検討委員会を開催いただき、本当にありがとうございます。これを持ちまして第5回雫石町小学校配置検討委員会を終了します。本当にありがとうございました。